

はくさん

あいたてまつること難し

第85号 H25年春号

伊豆市 法住寺 発行

「無常甚深 じんじん 微妙 みみょう の法は 百千万劫 ひゃくせんまんごう にもあ

いたてまつること難し がた」。皆さんがよくご存
じの開経偈の始め、「あいたてまつること難
し」のお話です。

*

今まで多くの方々のお葬儀を執り行い、引
導をお渡ししてきた。一人ひとりの生き方は
違うから、引導文は自ずとお一人おひとり心
を込めて創る。亡くなった方と真剣に向き合

い、その方の一生を想い、生き方に共感し、
戒名を授与し、引導する、気をしめてのお勤
めである。

特に苦勞することがある。それは亡くなっ
た方が怒りや不満、恐怖をもって亡くなられ
た時である。そうした方に如何に成仏して頂
くか。ご本尊さま、日蓮大聖人に、ひたすら
にお導き下さいと請い奉るしかない。

問題は亡くなった本人に何と伝えて成仏
してもらおうかである。

*

過日亡くなった方は、人間関係で苦しんで
亡くなった。相手が悪い、その相手に対する
感情は怒りとなり、相手を攻めながら若くし
て亡くなったのである。

この方は檀家さんではなかったが、不思議
なご縁で葬儀を頼まれた。亡くなってからお
葬儀までの二日間、この方と真剣に向き合っ
た、どうしたら成仏してもらえるかと。

その時「あいたてまつること難し」が頭れ
たのである。法華経は次のように私に教示し
た。

*

この方はお葬儀の場になってやっと、妙法
(法華経)に出会うことができた。これまで
何度も何度も、同じような人間関係に苦しん

で生まれ変わり生まれ変わりして(輪廻)、
今、やつとこの妙法に、あいたてまつること
ができたのだ。

とはいえ直ぐに成仏することはなかなか
難しい。それは苦しみをもち周りに不満や怒
りをもって亡くなったからだ。お気の毒だが
次の生でも、前世と同じような境遇に生れる
ことになる。しかし、この妙法にあい奉つ
たということは、次の生の生き方を変え本當
に成仏できるもの凄いチャンスに巡り合え
たということだ。

まず苦しみを感ずるのは、あなた自身であ
ることに気付なさい。いくら相手を攻めたと
しても、変えようとしても苦しみはなくなら
ない。苦しみを感ずるのは、あなた自身だか
らである。

そう思つて少し冷静に自分を見つめ、根本
的に苦しみをなくすには、あなた自身が変わ
らなければいけないことに気付いて欲しい。

相手を攻めるだけでは何も変わらない、む
しろ苦しみは増大するだけと気付けば、既に
あなたは変わり始めたのだ。相手を拒絶する
のでなく、根気よく相手に向かい、認めてい
こう、そして許していこう。

そうすれば相手は必ず変わってくる。そう
信じていけば、そのほかの様々な場面でもお

春の彼岸会

三月二十日(水・祝) 午後二時

花まつり

五月六日(月・振替休) 午後二時

コンサート、お花見

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

互いに認め合って感謝することができるようになる。その時、あなたは本当に成仏できるようになる。ご本尊さま、大聖人は温かくお迎えしますよ。それが妙法にあいたてまつるということです。

*

衣食足りて人間関係に悩むことが多くなつた。他人を悪者にして心の安定を図りがちであるが、それでは根本的な解決にはならない。この教示は現世を生きる私たちに向けてのものでもあると想う。ご本尊さまは、いつも私たちを良くしよう良くしようとして下さっています。

「あなた自身が変わりなさい。この妙法にあいたてまつることは、想像しても、し尽くせないほどのチャンスに巡り合えたのです。」

家族揃ってお題目

毎週、土曜日の朝、位牌堂から「南無妙法蓮華経」の大きな声が聞こえる。先日、おじいさんを亡くしたご家族が、小学生、中学生、高校生の孫たち、そしてお父さん、お母さん、おばあさん等々、家族全員で、七日ご



とのお詣りをしてい

*

私は廊下で、その大きく家族揃っての声を聞くと、得も言われぬ感動で、胸

がいっぱいになる。人は死んでしまえば何も残らないと思うかもしれないが、そんなことはない。今こうして家族中で旅立ったおじいさんを四十九日忌まで毎週、お寺にお詣りしお題目をお唱えして見送っている。

葬儀もお墓も仏壇もお経も、亡くなった方に捧げられるものではあるが、それだけではないのだと、この家族に教えられている。

*

失った人を悼み、お詣りという形をとりながら、その実、その人なしでこれから自分たちが生きていく世界を再構成しようとしているようにみえる。更にはりっぱに生き抜いたおじいさんを自分たちの世界に取り込みなおそうとしている様にみえる。

誰にとっても避けられない死を、静かに受け入れ、向き合っているこの家族のその後の人生は、より豊かなものになつていくと思う。

大きな体験 募集 子供万灯

「池上本門寺のお会式に、ぜひ子供たちを参加させたい。」そう熱っぽく語るのは白龍会会長、小塚順一さん。

大きな祭りに行つて楽しむことはできるが、祭りの中心に参加することは難しい。田舎の子供たちにぜひ池上の万灯を参加させ

たい。四十一万人から六十万人の人出、その中で万灯行列することは、気持ちがい何倍にも膨らむ、子供の将来に大きな夢となり思い出にな



昨年の白龍会、池上お会式

ると思う。

ちょうど今年と、来年は、池上のお会式が土日になる。行ける時に行こう。

勿論、お寺としても大賛成、行こう、行こう。お寺の大洋、采海も毎年行って、ギャラリーから大きな声援をもらったり、インターネットの動画サイトに投稿されたりしています。

具体的な内容は、白龍会からお知らせがありますので、この機会にご参加ください。檀家さん以外の子供たちも歓迎です。伊豆の子供たちに一層の元気になってもらいましょう。

月の満ち欠けを基にした太陰暦は、自然が

豊かなアジアで現在も使われており、農作業に適した暦といわれています。この陰暦では節分は大みそか、次の日、立春から新年となります。

洋明上人はじめ、修法師の方々が水行して身を清め、気合いを入れて、新年の善星が盛んになり、悪星が退散してくださいませよう、そして善き一年となりますようご祈祷致しました。厄年の方、ご家族の健康を願う方、交通安全、就職成就、合格祈願等々、多くの方で賑わいました。

トピックス

星祭の

今年も一月最後の日曜二十七日、星祭りが行われました。年々、盛大になってくねえと、声をかけて下さる方もいました。多いことをおごらず、少ないことをなげかず、行事をお勤めしています。



役員さん作業

今年も護持会役員さん方が奉仕作業をして下さいました。



作業は、第一墓地北斜面、くず葉が山を覆っていたので蔓切りです。夏になればまた山を覆うでしょうが、こうして作業しておけば勢いが違います。「手入れ」ってこういうことだなあと思っています。

第一墓地北斜面、くず葉切りのこの斜面にサルスベリ等植樹します

境内作業

春の作業は清水②の皆さんが、植樹を中心に奉仕してくださいませ。第一墓地の北斜面、二月に護持会役員さんがくず葉の蔓切りを

して下さった所に、サルスベリ、イロハモミジを植え、墓地の奥に土留めを兼ねてアセビを植樹してもらおう予定です。

寿量の塔、なまごまなお詣り



寿量の塔にお詣りが増えています。

先日は豪華な生花がお供えされていました。

また塔の前でお経をあげている方がいて、それをみた方が、これなら寂しくないねと言って下さいました。

寿量の塔に納骨されて、ご志納して下さい

御志納金 「二月〜二月」

七十万円 清水 小塚 剛殿 尊父葬儀の砌
二十万円 修善寺 三田一哉殿 尊父葬儀の砌
十万円 愛知県 大竹家 殿 寿量の塔納骨の砌
五万円 元村 三田信彦殿 先祖追善供養

方も多くいますので、入口に手すりを設け、花たてを増やすことにしました。



先日、スーパーのある棚に目が留まりました。付けタレ、焼肉のタレ、ウナギのタレ、などなど。売っている〇〇のタレの種類のに驚きました。

実は、お坊さんの世界にも秘密のタレがあるんです。〇〇のタレとはちよつと違いますが、学生時代の恩師の言葉「僧侶たれ」です。後ろ姿(背中)で語る僧侶になれるよう精進しなさいということ。誰でも、口で言うことは簡単ですが、態度で示すのはなかなか出来ないこと。私自身、もつともつと、心の奥まで「僧侶たれ」のしみ込んだ僧侶にならなければと日々精進です。

いていない背面を仏天に向けてお供え物をおあげします。

私たちは、前と横に穴が開いている「三方」と同じ。自分の前方、横はよく見えるのですが、自分の背中や後ろ姿は決して見えません。この後ろ姿を、「親の背中を見て子は育つ」というように、子供や、周りの人はよく見ているのです。そして誰より、「三方」をおあげした際、その背面を見ているが如く、私たちの背中を仏さま、守護の諸天善神、ご先祖さまが見て下さっているのです。

その自分の後ろ姿を、時に注意してくれる人、時に認め、褒めてくれる人。きつとその方は、自分にとっての変化の人(仏天が使わせてくれる人)でしょう。

今年五月二十五、二十六日の土、日曜日で七面山へ登詣します。七面大明神に感じたことに応じて頂き、心が通じる「感応」を頂けます様にと、そしてまだ見ぬご来光を拝めることを願ってお参りします。沢山の方と、苦楽を共にし、信仰を体で感じたいと思ひ参拝団を募集しています。(別紙案内参照)
どうぞ、共に、心身清浄に、後ろ姿を磨き、精進致しましょう。

さて、仏さま、諸天善神にお供物をおあげする際に使用する台を「三方」といいます。「三方」は前面、両側面に穴が開いています。この穴の開